

ヨウ化メチル剤の露地ショウガの根茎腐敗病 に対する防除効果と水稻への障害

山崎睦子・森田泰彰

Evaluation of Methyl Iodide as a control measure for Root rot of
Ginger by *Pythium myriotylum* (= *P. zingiberis*)
and Physiological disorder on Rice Plant

Mutsuko YAMAZAKI and Yasuaki MORITA

要 約

ヨウ化メチル剤くん蒸処理時の被覆フィルム下の空間確保のためのスパーサーおよび処理後の耕起によるガス抜きの有無が、露地ショウガ根茎腐敗病の防除効果に与える影響は小さかった。処理期間については、14日間処理は高い防除効果がみられ、3日間処理は14日間処理よりやや劣った。ヨウ化メチル剤処理1年後に水稻を移植すると、ヨウ素過剰症状である葉の黄化、赤褐色の微小な斑点および葉先枯れ症状を生じるとともに、葉数、分げつ数および草丈の抑制がみられた。2年および3年連続して水稻を移植した場合でも、葉の障害や生育抑制を生じた。また、ヨウ化メチル剤処理ほ場で冬期に湛水処理を行っても、水稻のヨウ素過剰症状の発生軽減効果は認められなかった。

5

キーワード：ショウガ，根茎腐敗病，ヨウ化メチル，防除効果，生理障害，*Pythium myriotylum* (*P. zingiberis*)

10